

# ↑ オピニオン

## 奈良発・見守りサービスが拡大

# 偏西風

奈良支局長・桑博之

に着目しました」と、MBTリンクを創業した、同大MBT（医学を基礎とするまちづくり）研究所の梅田智広教授は言う。

サービスの基盤は、気温や気圧といった環境と対象者の生活に関するデータ。電力会社の協力を得て、対象者宅の配電盤に家電製品の

生活をまるごとデータ化、分析して健康管理する。奈良県立医科大学（橿原市）発のベンチャー「MBTリンク」が展開する高齢者見守りサービスは、医療・介護費の削減を見込んだ20以上の自治体の実証事業として採用され、海外に

取り付け収集する。夜中に冷蔵庫を開けるようになった、掃除機をかける回数が減った、電子レンジを使う時間が不規則になってきた…。変化をキャッ

チしたら「最近、何かありましたか」と聞いて、受診や生活の改善を促す。集めたデータはスコア化する。値の低い人や急に下がった人には、心拍数などのデータを収集できる腕時計型端末を着けてもらい、より詳しく観察する。特に問題のない人にも、望ましい食事や運動量などに關する短いメッセージを1日

1回、スマートフォンに送る。内容は人工知能（AI）が判断。10万以上のパターンがあるという。会社設立から4年余りを経て「自治体間の口コミで広がってきた」そうだ。北海道沼田町、長野県売木村、東京都文京区根津、大阪府貝塚市など規模はさまざま。海外ではマレーシア・クアラルンプール、米国ボストンで、それぞれ現地の大学と連携している。

自治体を引き付けるのは医療・介護費の削減効果だ。例えば兵庫県三木市。高血圧症の約80人を対象に半年間、データを基に食事などのアドバイスもしたところ、健康診断の受診率が上がり、積極的に通院する人が増え、4割の人の血圧が下がるなどした。梅田教授によると、全面的に導入すれば医療費削減効果は推計年1億1300万円と「投資額を上回るはず」。

で「わざわざ来てもらうのは申し訳ない」と遠慮する高齢者もいる。コミュニケーションを適切に保つことは、多くの地域社会に共通する課題だろう。人口5千人余りの奈良県明日香村を舞台にしたドキュメンタリー映画『明日香に生きる』（公開中、溝淵雅幸監督）は、診療所の医師や介護スタッフらと地域住民の濃やかな交流を描き出す。

## データが育てる社会的資本

も広がりつつある。最先端の取り組みだが、成否の鍵を握るのは、地域社会で受け継がれているリンク（つながり、絆）だ。

「ライフスタイルや環境が健康に影響を与えること

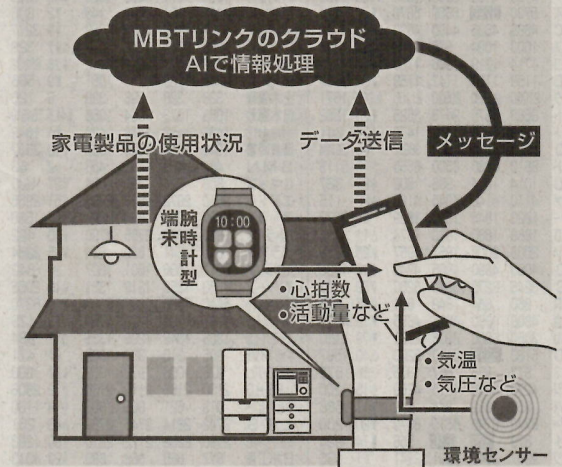
計型端末を着けてもらい、より詳しく観察する。特に問題のない人にも、望ましい食事や運動量などに關する短いメッセージを1日

ろは、高齢者らには「あからさまに嫌がられた」という。何のためのデータ収集なのか、自治体の担当者らと協力して説得し、なんとか続けているうちに効果が認知されるようになった。例えば沼田町では「お隣さんから『やってみたら体に良かった』と聞いた」と参加を申し出る人まで出てきたという。

しかし、事業を始めたころは、高齢者らには「あからさまに嫌がられた」という。何のためのデータ収集なのか、自治体の担当者らと協力して説得し、なんとか続けているうちに効果が認知されるようになった。例えば沼田町では「お隣さんから『やってみたら体に良かった』と聞いた」と参加を申し出る人まで出てきたという。

地域社会にあるデータと熱意を掘り起こしてリンクさせ、社会的資本を充実させる。それは、これからますます必要になることだし、実現可能だと思っ

### MBTリンクの健康見守りサービスのイメージ



多くの地域で行われている高齢者の見守り活動では人手が不足しがちだ。一方

「偏西風」は終わります